

# Ⅰ 研究の概要

## 1 研究主題

主体的に学び、学びを実感できる授業づくり  
～算数科の授業における単元デザインを意識して～

## 2 研究主題設定の理由

本校では、一昨年度より2年間、小松市から「ICT を活用した学びの推進事業」協力校の指定を受け、モデル校である松東みどり学園とともに、ねらい達成のためのICTの日常的な活用を積み重ねてきた。「ICTの効果的な活用はそうでない活用の中にある」ことを全教職員で共通理解し、日々の授業での利活用を進め、多くの実践が蓄積された。また、教職員にとっても児童にとっても、ICTを活用することが当たり前ようになってきている。

「ICTの活用」については教師自身も、日々の授業実践を通して、強く意識することができ、一定の成果が得られた。一方で、算数科の授業においては、「授業のねらい達成にこだわった授業づくり」や「学びの自覚化の充実」を図ることを授業改善の柱として研究を深めてきたが、教師が「この単元を通して児童にどのような力をつけるのか」を意識した単元構成が十分ではなかったことや、児童の振り返りの内容がねらいに即したものではなかったことなどの課題が残った。

以上の点から、今年度は、①「児童が主体的に学ぶ単元構成の工夫（単元デザインを意識して）」②「学びを自覚できる振り返りの充実」に重点を置き、研究主題の「主体的に学び、学びを実感できる授業づくり」を目指し研究を推進していきたい。

## 3 研究の内容

### （1）児童が主体的に学ぶ単元構成の工夫

- ・教師が「この単元を通して児童にどのような力をつけるのか」を明らかにするために「単元デザインシート」を作成する。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実を図る。（ICTの効果的な活用）
- ・単元の学習を活かした発展的な問題、日常生活に即した問題を設定する。

### （2）学びを自覚できる振り返りの充実

- ・授業で分かったことやできたことはもちろん、学びの過程を振り返り、自己の変容に気づくことができるようにする。
- ・児童が「どんな工夫をして、どのような学び方をして、どう分かったか」（自己調整力）を振り返ることができるようにする。
- ・単元全体でできるようになったことを振り返る。（例えば、単元全体のまとめ（算数新聞）を書く。

## 4 検証方法

### (1) 授業整理会を生かした授業改善

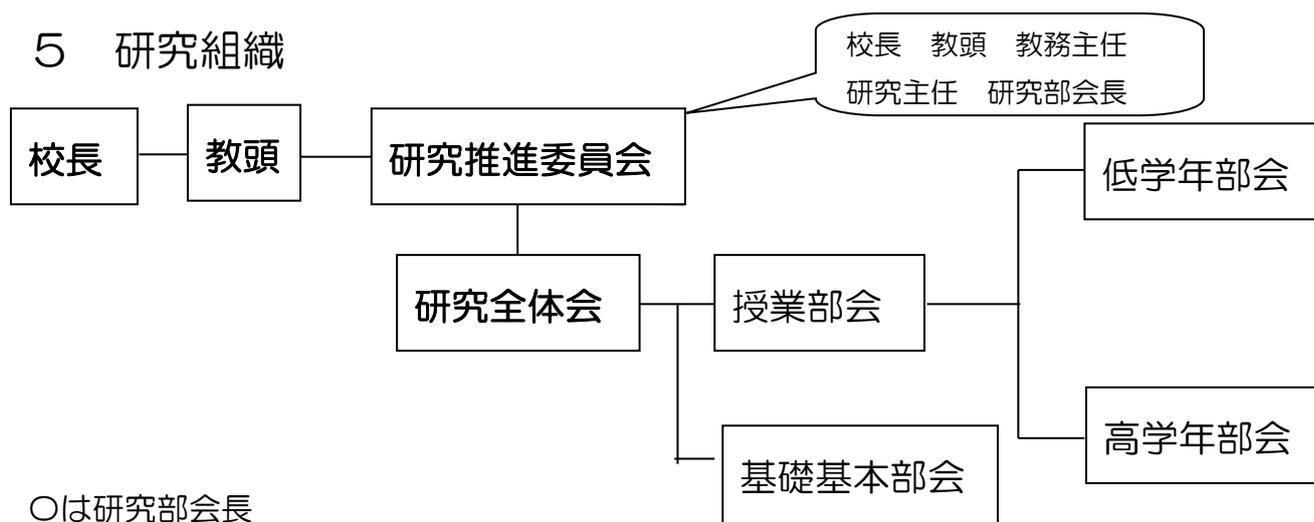
研究授業では、授業を見る視点に沿って、授業整理会を行う。授業のゴールを児童の姿で具体的に明記し、その姿に達しているかとその要因について検証する。

### (2) 評価テスト等各調査

評価テストの結果や授業のノートなどから、単元デザインが効果的であったかを検証する。

### (3) 児童アンケート・教師によるアンケートの実施

## 5 研究組織



	内容	構成とメンバー
<b>研究主任</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の全体計画、研修計画の立案・実施</li> <li>研究全体会の企画・運営</li> <li>研究授業・授業整理会の企画・運営</li> <li>研究物についての提案・総括</li> </ul>	山田
<b>基礎基本部会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な学習内容の定着のための取り組み</li> <li>ICT 活用のスキルの向上を目指した取り組み</li> </ul>	○吉村 ○種谷・吉村・田中
<b>授業部会(低)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法・学習活動の工夫</li> <li>模擬授業や指導案検討</li> <li>研究授業</li> </ul>	○山田・表・種谷 教頭・齊官・森
<b>授業部会(高)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの実施</li> <li>研究フィードバックの作成</li> </ul>	○菅波・佐田・田中 吉村・高田・(山田)

## 6 研究全体構造図

### 学校教育目標

自ら考え行動し、心身ともにたくましい児童の育成

### 研究主題

**主体的に学び、学びを実感できる授業づくり**  
～算数科における単元デザインを意識して～

### 研究で目指す 児童の姿

だい「大好きをふやす」→「算数大好き！」

れん「チャレンジする」→「もっとやりたい」

だい「大好き」→みんなで考えたら「わかった」

じ「自分たちの力で」→自分たちの力で「できた」

### 児童の実態

- ・与えられた課題には真面目に取り組む、基礎基本が身についている児童が多い。
- ・主体的に取り組もうとする意識は全体的に高くない。
- ・自分の考えを表現することに課題が見られる。
- ・ICTを日常的に活用し、自分で活用する場面を選択できる児童が多い。
- ・学習や生活面で支援要する児童がいる。

**主体的に学び、児童が学びを  
実感できる授業づくり**

①児童が主体的に学ぶ単元構成の工夫

②学びを自覚できるふり返りの充実

### 教師の願い

- ・自分の考えをもち、意欲的、主体的に学ぶ子を育てたい。
- ・授業、単元全体を通して、児童自身が自分にどのような力がついたか実感できるようになってほしい。
- ・基礎基本の学習内容を確実に身につけさせたい。
- ・児童が自分でどんな工夫をして、どんな学び方をして、どう分かったかをふり返ることができるようになってほしい。

**基礎・基本の定着(学力向上・GIGA 推進)**

①基礎的な学習内容の定着

- ・Qubena やドリルプラネットの活用
- ・蓮小計算検定の取り組み

②ICT 活用のスキルの向上

**温かい学級づくり(生徒指導)**

- ①生徒指導の3機能を生かした学級づくり
- ②れん友タイムによる人間関係づくり
- ③学習集団として高まるための基盤づくり(学習規律を守る)

## II 研修計画

月	日	研修	内容等
4	26	研究全体会①	今年度の研究の方針の確認・検証の方法 単元デザインシートの提案
5	8	研究全体会②	研修計画・指導案・授業整理会の提案
6	9	提案授業・授業整理会	3年提案授業・授業整理会の方法
6	20	部会	6年指導案検討
6	30	模擬授業	6年模擬授業
7	7	研究授業・授業整理会	6年研究授業・授業整理会
7	上旬	研究アンケート	児童アンケートの実施・集計、教員アンケート
7	17	研究全体会③	単元デザインシートについて
8	3	低部会	2年指導案検討
8	8	要請訪問	個別最適な学びと協働的な学びの一体化について 単元デザインシートを基に、2学期の実践について協議する。(2年・4年を中心に)
8	28	研究全体会④	1学期のまとめと2学期の取組について 学びの自覚化の充実について協議する。
8	29	低部会②	2年指導案検討・1年指導案検討
9	6	研究全体会⑤	2年指導案検討
9	11	部会研究授業(低学年)	1年部会授業・授業整理会
10	4	模擬授業	2年模擬授業
10	下旬		単元デザインシートの実践の振り返り①
11	1	研究授業・授業整理会	2年研究授業(計画訪問) 授業整理会
11	中旬	部会(高)	5年指導案検討
11	下旬	部会研究授業(高学年)	5年研究授業
12	25	部会(低・高)	研究のまとめについて
12	上旬	研究アンケート	児童アンケートの実施・集計、教員アンケート
12	下旬		単元デザインシートの実践の振り返り②
1	22	研究全体会④	研究のまとめと3学期の取組について
2	下旬	研究アンケート	児童アンケートの実施・集計、教員アンケート
2	下旬		単元デザインシートの実践の振り返り③
2	29	研究全体会⑤	次年度の研究の方向性について

- ・研究全体会の前に**研究推進委員会**を行う。
- ・提案授業(3年)、全体研(2年・6年)、部会授業(1年・4年・5年)  
6月～12月に部会授業を行う。部会→部会授業→授業整理会の流れで行う。
- ・単元デザインシートを2学期末までに全員が2回作成し、実践・振り返りを行う。